

平成29年度第2回 恵那市男女共同参画プラン推進委員会【要約】

日時：平成30年2月14日（水）午前10時00分～午前11時45分

場所：恵那市役所 西庁舎 災害対策室B・C

-
1. 開会
 2. 会長あいさつ
 3. 議事
 - (1) 男女共同参画プランの進捗状況について【報告・協議】
 - (2) 「男女のわ」ネットワークの今年度の取り組みと今後の取り組みについて【報告】
 - (3) 男女共同参画に関する今後の新たな取り組みについて【協議】
 - (4) その他
 4. 閉会
-

■出席委員

坪井弥栄子会長、亀井邦子委員、勝富子委員、鈴木栄子委員、堀有希委員、奥村ひとみ委員、山田英明委員、渡辺熙之委員、足立伊公子委員、松永晴美委員、松尾かおり委員、佐藤暁彦副会長

■欠席委員

伊藤正明委員、吉村綾子委員、村松訓子委員、三浦みゆき委員、保方多津美委員

1. 開会

- 司会（事務局）：平成29年度第2回恵那市男女共同参画プラン推進委員会を開会する。

委員の皆様は任期は2年間で今年の7月24日までだが、本日の審議で特段次回会議開催の必要がなければ、本日が皆様の任期中の最後の会議になる。このことについては、議題の最後のその他で提案をさせていただく。

はじめに、恵那市男女共同参画プラン推進委員会の坪井会長よりご挨拶いただく。

2. 会長あいさつ

- 会長：早朝からご出席頂きありがとうございます。女性にとってこの時間は大変だったと思いますが、スケジュールの都合上この時間にさせてもらった。

事前配布資料のとおり、プランと前年度からのご意見を集約させていただいて各課へ取り組みをお願いしているわけだが、少しずつ形になっていると実感している。皆さんからの意見は、行政の中ではなかなかすぐにはできないものもあるが、意見により改めて感じてもらった事はたくさんあるのではないかと思う。推進委員会の必要性というのはそういったところで大きく実を結んでいると思う。

本日の会議が最後となるかもしれないが、皆さんの忌憚のない色々な意見、前向きな意見を頂いて進めたいと思う。よろしくお願いします。

3. 議事

- 司会（事務局）：本会議は恵那市審議会等の公開に関する指針に基づき公開となる。本日の会議は事前に資料を配布していることもあり1時間半を目処に終了したい。これより次第に沿って会議を進めるが、これ以降の議事進行については、恵那市男女共同参画プラン推進委員会設置要綱により坪井会長にお願いする。よろしくお願いします。

(1) 男女共同参画プランの進捗状況について【報告・協議】

- 事務局：[資料により説明]
- 会長：説明について前進していると感じたが、全体を通して質問はないか。〇〇委員、国際交流はアンケートを行うのか。
- 事務局：これは、総務課でアンケートを実施する際に、国際交流協会の実態を聞きながら一緒に行うもの。
- 会長：他に質問や意見はないか。
- 事務局：今年の特徴だが、ここ数年間どちらかというと市役所の内部的な男女共同参画に力を入れていたところを、外部に向けた男女共同参画に力を入れていこうということで、こども園や高齢者サロンへの紙芝居を「男女のわ」ネットワークの取り組みとして

〇〇委員に中心になって行ってもらった。また、これまでにない取り組みをいくつか取り入れた。企業訪問もその一つである。市内の企業へ男女共同参画プランやDVDを持って伺い、所長さん方とお話をした。意識は高かったが、実際の実行となると会社のトップが行うことなので・・・ということだった。ただし、これは継続していきたいと思っている。

働く方への支援としては、特に放課後児童クラブ（以下、「学童」という。）が東野と飯地町で未設置であったものを来年度に開設できるよう、予算を議会へ上程しているところだ。

- 会長：私も気になっているのが学童である。現在、東野小学校の子供が大井小学校の学童へタクシーで行っている。バスでは時間が合わないのだ。それでもお母さんは勤めたいということだ。今のところそういった利用は一人だけだが、東野に学童ができればもっとたくさんの方が子供を預けて働くことができると思う。それから、第2次総合計画の中にも学童の充実ということが書かれているが、学校の近くに開設をすることが大切だと思う。三郷町は、佐々良木に小学校があつて学童は野井にある。1、2年生はバスが使えるから良いが、3年生以上は歩いてこななければいけない。冬場の下校時には真っ暗な中を歩いてこななければいけないし、夏休みはプールへ入るために片道30分の道りを大汗かいて往復しなければならないので、保護者からはとにかく学校の近くに設置してくれという要望があつて、コミュニティセンターの貸館の活用によって改善しようかと考えている。

消防団には10年ほど関わりがあるが、操法大会の前や夜警の頃には消防未亡人と言われるほど、毎晩、若いお父さんが出て行かなければならないので、それも考え物だという意見を消防の会議へ出て発言してきた。夜警も少し短くなるようだ。

- 事務局：年末夜警は期間が25日～30日の6日間を28日～30日の3日間に。時間も夜10時～4時を10時～2時に変更予定だ。
- 会長：そういったことも市民は知らないのだ、もう少し広報すると良いと思う。
- 事務局：やはり、こういった委員会から声を発してもらうことが大きなものになる。地域の方々も思っているもなかなか伝える手段がないので、こういうところでご意見を言ってもらって我々が担当課へ伝えるということ、一度に全てを変えることはできないが少しずつ変えていけたらよいと思う。
- 会長：ご意見はないか。
- 委員：女性のプチ起業でぜひやってもらいたいことに、観光ガイドがある。明智の大正村のガイドはボランティアで対応しているが、非常に高齢化が進んでおりほとんど人員がない。以前からその話は何度も出ているが、頼んでも誰もいないからということで解決していない。専門的な知識があつてガイドして下さる方がいるとありがたいという

事は分かるが、そこまでハードルを上げず、その場所まで連れて行ってあげるだけでも知らずに来ている方は喜ばれる。短い時間案内するだけでいいよというものを、小さい子供がいる女性の方などが少しの育成期間を経て有償でできるシステムや機会を作ってみてほしい。

- 事務局：観光ガイドは明智と岩村にあったと思うが。
- 委員：岩村のシステムはすごくしっかりしていて、岩村はいいなという話題がいつも出る。
- 事務局：観光交流課が大正村自体の管理を指定管理で行っているの、主管の観光交流課へ伝えるようにする。大正村のガイドは有償なのか。
- 委員：利用者は無料。ガイドにはほんの少しはお金が出ているようだ。
- 会長：岩村は、利用者は有料だ。
- 委員：利用者は有料の方がかえって頼みやすいし、いいのではないかと思う。
- 委員：有償でやってくれるガイドを育成することと、ガイドを利用してもらうにはどうしたらいいかということと同時に考えていかないといけない。ガイドも引き合いがないと物足りなく感じてしまうと思うので、何をガイドしてもらえるのかという事を発信することも含めてシステムにしていけるといいかと思う。そういうことをガイド達が自ら考えていくということも一つの方法かと思う。
- 会長：他にないか。
- 委員：今、起業の話が出たが、ビジネスサポートセンターの利用状況やセミナーの参加状況はどうか。
- 事務局：センターの利用は1日に2、3件。1月に70件ほど。
- 会長：恵那くらしビジネスサポートセンターの役員をやっている。暮らしとビジネスが合体してセンターとなっている。以前は、暮らしの部分は北庁舎で行っていたが、庁舎の裏ということであまり人が来なかった。恵那駅前の旧靴のアメリカヤの跡地に移ってからは、鉄道利用者のアクセスも良いし、場所が良くて駐車場もあるということで、空き家バンクの登録情報を大勢の方が見に来たりして利用者が増えた。センターの職員が市内13地域のサポーターに連絡を取って案内をしてくれるという仕組みだ。また、ビジネスについては、自分の家でやっているだけだったミニビジネスもセンターへ行って相談したら規模が大きくなったと言う話もあったし、センターの活用が増えてきたと感じている。また、そういった利用件数をこちらでも把握していけるといいと思う。
- 会長：他に意見はないか。ないようなので次の議題にうつる。

(2)「男女のわ」ネットワークの今年度の取り組みと今後の取り組みについて【報告】

- 事務局：〔資料により説明〕

- 会長：紙芝居の上演については社会福祉協議会を通じて案内を行うということなので、〇〇委員にはよろしく願います。
- 委員：紙芝居について補足する。こども園は、「男女共同参画」だけではお勉強的な感じで面白くないと思い、おまけで他の紙芝居や絵本の読み聞かせを加えている。高齢者は紙芝居を全4本ほど、30分～40分の時間で行う。うち一つが男女共同参画の紙芝居で、あとの3つはお楽しみの紙芝居を上演している。高齢者向けの構成は、最初が「金色夜叉」で、昔の女性はこんな風でしたねという話をしてもらい、今はこんな時代ですよと「男女共同参画」を上演している。その後、「瞼の母」や市民三学大井委員会で作った「恵那峡のきつね」や「武並神社の桃太郎のこぶ」を上演している。サロンへの案内では、男女共同参画だけでなくお楽しみの方もアピールしてもらえると、いきいきサロンに上演に来てという方があるのではないかと思う。
- 会長：みさと愛の会で2回上演をしていただいたが、金色夜叉の後にどうだったかを聞いてみると、自分に置き換えて男女共同参画って面白いなと感じる意見をどんどん言われて盛り上がったし、とても良い雰囲気でも楽しんでもらえた。男女共同参画の紙芝居については、「うちではあんな事は前からやっている」とか、「あんなことは当たり前やて」と言う方がみえたりもしたが、そのことの再認識が大切。高齢者にとっては、今まさに孫の世代がオムツを替えたり家庭のミルクをやったりお勝手をやっている時期なので、「うちではやっている」とか、「うちは全くやっていないから言わなくちゃいけない」という感じだった。お年寄りが、そんな事は男はやらんでもいいという感覚になってしまうと、男女共同参画が進まない。今の若い方はみんな男女共同参画の思いを持っているけれど、核家族なら必要に迫られてやらなければいけないところが、2世代、3世代の家族になると男性は自分がやらなくてもいいと思ってしまうたり、手を出すところがなくなりがちだ。自分の子供だからという気持ちで手を出してもらえるといいと思う。また、子ども園は少し手直しをして実施するという事だが、私達世代の感覚では、こども園での男女共同参画がここまで進んでいるとは思っておらず、こども園の先生達からそれはちょっと古いという意見があった。一生懸命考えてくださったので、先生方と一緒にこども園などの実態も反映させていくと、もっと受け入れやすいのかなと思う。全体としては、こども園も高齢者サロンもすごく良かったという評判を聞いているので、2月末の社会福祉協議会のサロンの会議の際にはPRして広めていただきたい。その他ご意見はあるか。ないようなので次の議題に入る。

(3) 男女共同参画に関する今後の新たな取り組みについて【協議】

- 事務局：〔資料により説明〕
- 会長：担当課からの提案で今回初めて出てきた。私が審議会の委員をやり始めた頃には

たくさんの女性がみえていたけれど、徐々に少なくなってしまった。地域協議会の女性の登用率は少ないところは5%台、多いところでも25%、三郷町は20.8%くらいだった。

- 事務局：地域協議会は全体で16.1%。
- 会長：初めのうちは活発だったが、だんだんと女性の意見が聞けなくなり、男性主導の意見で進んでしまっている気がしている。男女共同参画を進めていく上では、こういった方法で少し強制的にでもやっていかないとみんなの中に浸透していかないのかなとも思う。

一つ、対象者の中に「①各地域協議会の女性役員」「②各地域協議会構成団体の女性」とあるが、地域協議会の役員が少ない中から選んでくることになってしまうので、「その他、地域で選ばれた女性」というようなものを入れてはどうか。また、なかなか地域協議会の役員には女性は推薦されないの、地域で選ばれた女性というのは、例えばこの推進委員会の中で、大井町なら〇〇委員が地域協議会に入ってみえればいいのだが、そうでなかったら、こちらから、こういった方がみえますよと情報提供してはどうか。明智町だったら〇〇委員、山岡町だったら〇〇委員、中野方町だったら〇〇委員がみえる。地域が選んでくるメンバーには一生懸命やってもなかなか名前が入らないと思うので、こういった方がこういった活動に参加していますよという事で、名前を振興事務所に示す。また、〇〇委員や〇〇委員にもぜひ地域協議会などに入っていたきたい。家庭にいる主婦の方が役員に入ると家庭や地域で味わった意見が入るが、働く女性の意見も入れていかないと地域協議会に色んな意見が反映されないという気がする。まずこの委員会の委員の方々は、それぞれご本人の了承を得て地域へ名前を推薦していくという事はどうか。

- 委員：地域協議会と地域自治区運営委員会とは違うのか。
- 会員：地域自治区と地域協議会の説明をお願いしますか。
- 事務局：〔地域自治区、地域協議会の役割及び構成員の説明〕
- 委員：地域協議会と地域協議会運営委員会から市民三学大井委員会へそれぞれ1人の選出依頼があり、地域協議会へは副会長、地域協議会運営委員会へは会長の私が入っている。協議会と運営委員会の上下の意識はなかった。
- 事務局：運営委員会も対象に入れてもいいかもしれない。
- 会長：地域協議会と運営委員会は同じメンバーという地域が多い。三郷町では、地域協議会と運営委員会の合同会議として行っているぐらいだ。
- 委員：公募も入れていいのではないかと。現在役員の人だけでなく、これから役員になる人を育てていくのではないかと。それから託児もつけるべきだ。
- 委員：そこへ出るには、ある程度地域のことを知っている人。ある程度年齢がいて、家庭もあって、なおかつ仕事を持っていたりすると、夜に出るのは難しいのではな

いか。そういう意思決定の場に女性が出ることは必要だと思う。また、お嫁さんは外の地域から来ているので違う見方ができたり、違う意見を持っているので面白いと思うので、そういう人たちの意見を取り込んで集約して生かしていける形があるといいかと思う。

■会長：初めて地域協議会に出てもらったとき、誰もが町のことを 100%知っていて出てくるわけではない。PTAの副会長などは若いけど、子をもつ親の立場の意見を皆に知ってもらいたいという気持ちで、それぞれの団体から自分の出てきた役割を背負って話をする。地域協議会というのは、意思決定の場であるし皆の情報交換の場でもある。それまでの自治連合会は自治会長と班長が構成員で、個々の見守りしか分らなかったが、ここへ来ると色々な活動をしている人達がそれぞれの意見を出す。2年間の任期中に色々な事が分かる。

■事務局：6ページの内容の部分を見ていただきたい。この推進委員会の皆様方はなんとなく議会や行政の事は分かっているかと思うが、実はそれすら分からない方が大半だと思う。そのため、地域の役員を受けようとする少し構えてしまうと思う。その入り口の部分を教えたいというものなので、名称も柔らかい感じにしたし、内容もガチガチのものではなくて、軽い気持ちのものにしたいと思う。ちょっと集まって、「議会ってこういうものだよ、企画課の仕事ってこういうことだよ」などと、基礎的なことを伝える。市役所に新人職員が入った時に教えてあげると感じのもの。地域でも、例えば、長島町、山岡町がまちづくりで主に何をやっているのかというと、同じ地域でも知らない人がいる。そういった入り口の部分を教えてあげて、少しでも知識を習得して女性がまちづくりに参加しやすい環境を作ってあげたい。今回が初めての事なので、まずは一回やって、反省事項がたくさんあると思うので、その上で意見を聞きながら修正していきたい。もちろん、推進委員会の皆様もご興味があれば出ていただいて構わない。

■会長：推進委員会の皆さんに出ていただくと、こういう部分が足りないとか、こんなことは言わない方がいいとかいう意見がもらえると思う。まず、12月までに行ってみて、1、2月には地域協議会の委員を選出しなければいけないので、その後についてはその時に改めて考えてみてはどうか。

■事務局：人数も一般的な適正人数は10人くらいだと思うが、10人だと地域あたりおおよそ1名でやや少ないので、地域あたり2名で26名とした。

■委員：提言ではなく提案だ。10年前にこの取り組みがあったら良かったなと感じた。しかし、こういうものがなかった頃は、自力で図書館の関係する本を借りるなどして調べた。図書館には様々な本があるので、図書館と連携して関連本を紹介してもらってはどうか。難しいものでなくていいと思う。児童コーナーの秘密シリーズの中の「ま

ちづくりの秘密」をはじめ、児童コーナーであっても簡潔にまとめた分かりやすいものがある。自分で調べなくても、図書館のカウンターで相談できることも知らせてあげるとそういう習慣がつく。このプログラム後は自らアンテナを張って情報を得ていかないと続かないのでそのための一つの方法になったらいいと思う。図書館に言えば適当な本を選んでもらえると思う。

- 会長：参考にしてほしい。皆さんいかがか。
- 委員：過去の審議会などには、必ず一定以上の割合で女性が入っていたのか。
- 会長：ほぼ強制的に入っていた。女性は何パーセント必要なので女性を推薦してほしいという依頼があり、子供の見守りの視点で誰々、男女のわネットワークから誰々という形で推薦させてもらった方がずいぶんあった。始めはそういうことがきっかけでも、中に入って聞いているうちにだんだん変わってくるのではないかと思う。
- 委員：この審議会へは、定年塾をきっかけに入会した男女のわネットワークから推薦され、〇〇委員と〇〇委員と共に入った。自ら手を挙げて出てきたわけではないが、出てくると勉強になるし面白い。
- 委員：長く続けている理由は何か。
- 委員：私のような人はたくさんいる。家庭から一歩出たぐらいの事しか知らなかったが、今までまったく知らなかった分野に一歩踏み出して色々なことを知るのもこれからの人生で楽しいかもしれないと思い、そんな軽い気持ちでやっている。私も図書館サポーターを10年やっているが、そういうものもちょっとした興味から始めたもの。仕事ばかりしていたが、60歳からの再スタートという感じだ。全く知らなかったものを少しでも知ることができると、また見る目が変わってくると思う。
- 会長：自分が代表をやっているときにこういう所へ入って習得したことというのは、結構いつまでも頭にあるし、会議に出てよかったという思いはおおよそ2年の任期の中で出てくると思う。今回の提案内容は1年間のプログラムで終わるが、こういったものを「男女のわ」ネットワークの出前講座に入れて、1日に2項目くらいずつやっていってもいいかと思う。
- 委員：今回提案のあったこういうものを、分かりやすいものを分かりやすく継続していく事が大切だと思う。
- 委員：こういう内容を知らない人の方が多いと思うので、こういった事をやる事はすごくいいと思う。ただ、そこに出てくる人がいつも同じ人という事にならないように工夫をしていかなければいけないのではないか。あとは、お忙しい年代もあると思うが、若い人からお年寄りまでいての恵那市なので年代も広げられるといいと思う。
- 委員：自治連合会は各区や地域から出てくるので男性が多い。地域協議会は、自営業や地域で働いている方でやはり男性が多い。活動をしているのが女性の団体でなおかつ代

表で出てくる女性は、よほどパワーがあったり時間の使い方が上手であったり身軽に動ける方かなと思う。中野方町の地域協議会の組織図を頭に描いてみると、仕事を持っている女性で、旦那さんが消防団だったりすると会議に出るのが無理なんじゃないかと思う。そうすると、突然女性が地域協議会の場へ入って、そういった場で男性が使う農業や地域や補助金に関わる難しい言葉を聞くと言葉自体の意味すら分からなくて、ポカーンとして、すごいなと思って聞いている。もっと女性が自治会からも出る、各組織から出ることが必要。私達の中野方不動滝やさいの会も代表を男性にしていると言ったが、ちょっと考え直して、女性でもそういう場へ出て、どんどん他の会からも女性を引き込んでくる、そういう考えに変えた方がいいのかもしれないと思った。

■委員：私は外から入って来たので分からない事が多々あるが、そんな時には、山岡町はNPOがあるのでそこへ行って聞いてくる。自分でも、婦人会の役をやっていた時には分からないうちに色々動いていたという事があった。

■委員：こういった対象者の中に地域協議会の会議を見た事がないとか、存在自体知らないといった方があると思うので、公聴会のような現場を見に行く機会をつくるとイメージがわきやすいのではないか。

■事務局：地域協議会は公開だが、人数制限を設けていて5～10人が上限だと思う。明智、岩村は公聴が多いと思う。

■委員：男女共同参画の市民講座の開催実績がないということだった。こういったプログラムを、対象者を選任してやるということはもちろんいいことですし、先ほどの意見のように、市民講座のような形で広くプログラム化して講座として常に出向いていく形が取れば、広く市民の方に知ってもらうにはそういった市民講座等での受け入れやすい体制を整えていくことが大事だと感じた。

あとは、資料No.1で活動の目標値が設定できていない項目が多い。まだ3月まで期間があるので、次年度に向けて目標値を設定すると、目標値をクリアする達成感が得られて計画自体が推進していくのではないかと感じた。

■委員：身体障害者団体は、動ける方は動いてくれるのですが、動けない方は全く動けないという中からこの場へ出てきています。この頃、身体障害者手帳を持っている若い方で活動しようというような方が少ない中でも、女性に役員になってもらおうと少しずつ変えてきています。女性でも男性の中で発言したり、どこへでも出かけていってくれる方もありますのでそういう方を増やしたいと思います。

■会長：男女共同参画となると対象者が限られてくるのでなかなか難しいかもしれませんが、そういった活発な女性が増えてくるといいです。そういった気持ちをもっているとだんだんとそうなると思うので、よろしくをお願いします。

■委員：会議の際の少数意見について、自分の子供がこうだったからこうしてほしいみた

いな事を言うとわがままの様に聞こえてしまって、でもそれは言い方一つで、このようにしたら恵那市のために理想の形になるから他からも移住してくる人が増えるでしょうという形に持っていけばそれが施策になっていくかもしれない。しかし、初めて会議に入るとつい自分の事を言うので少数派の場合辛い思いををすると思う。この10年間、女性のちょっとした一言で実現された施策で現実が大きく変わったこともあり驚いていますが、そういったヒントにもなるようなものをいくつかピックアップしてはどうだろうか。意見を言えば実現するというのが審議会系で一番感動したこと。今回の委員会でも委員の皆さんが言ったことで実現されているものが多い。過去には言いつばなしと言う事も多かったのだが、実現されているのだなと分かるものがいくつもある。それを女性にも伝えて、発言すれば市が変わるといった感動を見せてあげられるといいと思う。

■委員：私は大井町で子育てサロン事業を行っている。大井地域自治区の運営委員会役員として実行委員会を立ち上げ、大井町のかわら版でサロン事業をするから実行委員になりませんかと呼びかけたら0歳児のお母さんが3人応募され、共に実行委員となり、毎月サロンを開いています。会議が持ちにくいから、スマートフォンアプリのLINEで打ち合わせをして、当日集まってちゃちゃっと開いてしまう。お母さんたちのネットワークで広げてくれて実行委員も来年増える予定。大変ですが、若い人の意見を取り入れて負担にならないようにすると、そういうものをやりたいという人が多いのだなと感じた。毎回、市や大井町に思う事のアンケートを取っているが、それを見て思うのは、公園に遊具がほしいとか、ここの道路が危ないので直してほしいとか意見が出てくるけれど、自分が審議会の委員になって発言して勝ち取るくらいになってほしいと思う。公募で、あなたの要望を実現しませんか、審議会の委員になると実現するよというような感じで呼びかけると良いと思う。若いお母さんたちは子ども園のことなどもたくさん情報を持っているので、自分たちの意見を反映できる実現できる場ですよということをもっとアピールした方が良いと思う。

■会長：〇〇委員が言われたように、形に見えるのではなくて、こうやって文字にしてみると良く分かるということがあるので、ぜひ、今の説明のこれは進めていただきたいと思う。皆さんからいただいたご意見を付け加えたりしながら、進めていただけたらと思う。他に意見はないか。ないようなので次の議題に入る。

(4) その他

■事務局：〔委員の任期の変更について説明。要項で「2年とし」となっているものを「委嘱の日から翌年度の3月31日まで」に変更し、適用は次回委嘱の委員から。〕

■会長：提案についてよろしいか。よろしいようなので改正手続きをお願いする。それで

は、本日予定されていた議事をこれで全て終了したので、進行を事務局へ返す。

4. 閉会

■司会(事務局):ただいまの説明のように、今の委員の皆様は7月で任期満了となります。そして、次の委員を選出していただく事になりますが、今までこの委員会は6回開催させていただいた。例年どおりだと、年度当初にこの会議は開催していないため、7月まで会議がないと皆様方は本日が最終となるが、何かあったらまたお願いしたいと思う。しかしながら、そういった状況です。2年間本当にありがとうございました。心からお礼を申し上げます。今後も、せっかくなので色々ご意見ください。また、市政運営にもぜひご協力ください。最後に、佐藤副会長から閉会のご挨拶をいただく。

■副会長:皆様、2年間、委員会へのご参加ありがとうございました。今日の報告にもあったように、非常に多くの事が進捗したことが私も非常に良かったと思っている。それについて事務局の方も推進に力を注いでいただいて感謝します。また、男女のわネットワークの方も活発な啓蒙活動に取り組んでいただいてありがとうございます。個人的な話になるが、今年は自分の事業が忙しくて手一杯になってしまったという事もあったし、2年間、副会長という席に座らせていただいて自分なりに何ができたかを思うと、色々やりたい事や、明らかにしたい事があったのですが、今年はなかなかそれができずに、皆様と事務局に積極的に働きかけていく事ができなかったというのが、非常に寂しく反省しているところではある。

あと、もう一つやはり男女共同参画というものが非常に壮大すぎて、どこにゴールがあるのかが見えない。そういったビジョンの中で、一人ひとり皆さん思う事が違うと思う、受け止め方とか。そういった中で、自分はどのようなスタンスでやっていくのかという事をこの委員会の皆さんの意見や、周囲の接する人の意見の中で自分がどうしてこうという事を学びながら過ごした2年間だったと思う。これからは、それをまた地域や周りの人に自分が伝えていく、そういった役割があるのではないかと考えている。これから先もそうした果てのない取り組みに皆さんで突き進んでいっていただきたいなと思うなかで、この委員会がその中心的な役割となっていくよう、皆様のご活躍をお祈りして閉会のご挨拶とさせていただきます。それでは、これで第2回恵那市男女共同参画推進委員会を閉会致します。ありがとうございました。